

1 「志望理由」の善し悪しは志望校によって異なる

以下は、志望理由のサンプルです。

サンプルA

御校の教育方針の中の「○○○○○○○○（受験校の教育方針）」という人間尊重の精神に深く共感を覚え、志願いたしました。

サンプルB

説明会でお話をお伺いし、私どもの家庭の教育方針と基本的に通じるものがあると感じました。御校であるなら、子どもにとってよい結果を生むに違いないという結論に達し、志願しました。

A Bとも、あまりデキのいい志望理由とは思えませんが、一概にダメと決めつけることはできません。受験校によつては、これでもOKです。子どもの成績を重視する学校であれば、志望理由が多少ザツでも大目に見てくれると思います。

志望理由をあまり重視していない学校の場合、校長自ら「パンフレットに書かれている教育方針の丸写しでもいい」とはつきり言っていますから、よほどのことがない限り、具体性がないとか真剣味が感じられないなどの理由でチェックが入るようなことはありません。

募集定員を確保するのに躍起となっているような学校の場合も、願書にあまり神経を使う必要はなさそうですが、対応は2つに分かれています。一つは、「定員割れをしても、合格基準に達していなければ不合格にする」という学校の場合、願書のチェックもそれなりの厳しきで臨むでしょう。あまりにも安易と評価されると減点になると思います。

定員割れは何としても避けるという方針であれば、志望理由をチェックして減点するなどという手間のかかることはしないでしよう。保護者は志望理由で頭を痛める必要はないと思います。願書の記載内容については、基本的にノーチェックという学校の場合、「願書については、文字が判読できるか、記載ミスや記入漏れの有無をチェックするくらいで、内容について吟味することはほとんどありません」という姿勢です。

一方、「志望理由は、本校をどれくらい理解した上で受験しているのかを知るバロメータ」と位置づけている学校では、A Bともやはり具合が悪いのです。Aは、本気で入学したいと思っているのかを疑われてもしかたないほどザツです。Bは、いちおう学校説明会に参加しているようだし、入学したいという意欲も感じられますが、それ以上のものではありません。もし受験したのが第一志望であれば、A Bとも全面的な書き直しが必要です。

2

志望校の教育方針との一致にとらわれないほうがいい

「志望理由」を誤解している保護者が少なくないようです。志望校の教育方針とわが家の教育方針が一致していなければいけないと思ひ込んでいるのです。間違いとは言いませんが、このパターンにあまりとらわれないほうがいいと思います。「教育方針一致強調型」の典型的なサンプルが次の志望理由です。

「新奇に走らず、旧習にとらわれず、教育の基礎としての人間の育成」という御校の教育理念に深く感銘いたしました。とくに校長先生のお話の中にも出てくる「自分の目で確かめ、自分の頭で考える自発的、創造的な学習態度を重んじ」という指導方針は、幼児期の学習は体験が大事というわが家の教育方針とも合致しており、ぜひとも御校で学ばせたく志願いたしました。

一読して、なんと空々しい志望理由と感ぜませんか？ この志望理由は、ある学校のホームページを見ながらつくりました。カギかっこ内の文章は志望校のホームページからの引用です。面接官が見れば、うちのホームページからのつまみ食いだとすぐわかります。

この志望理由のどこがいけないかというと、「幼児期の学習は体験が大事」というだけで、どんな考え方で子どもを育ててきたかがわかりません。それに何としてでも御校で学ばせたいという熱意が読

み手に伝わってこないのです。「志望校の教育方針の理解とわが家の教育方針との一致」という図式にとらわれすぎたことが原因です。

市販図書にも同じようなパターンの「文例」がサンプルとして紹介されているかもしれませんが、でも、「志望校の教育方針の理解とわが家の教育方針との一致」という図式で志望理由を書くのはあまり賢明とはいえません。

そもそも志願者が「志望校の教育方針を理解している」かどうかは面接官が判断することであつて、志願者が「共感」「感銘」「感動した」と力説するものではないのです。たかだか数行の短文で「教育方針を理解した」と読み手に納得させるのは不可能とはいえませんが、ムリがあります。

学校が知りたいことは、どんな考え方や方針の下に子どもを育ててきたかの一点です。両親の考え方や方針が志望校の教育方針に合っているかどうかは、学校が判断すればいいことです。

むろん、志望校の教育方針は知らなくてもいいということではありません。志望校がどんな方針で子どもを教育しようとしているか、それくらいはわかっただ上で応募するのは当たり前であつて、あえて書かなくてもいいということです。どうしても書きたいのであれば、「これこれの考え方で育ててきたので、御校を志願しました」くらいにとどめたほうがいいでしょう。

たぶん、多くの願書が「志望校の教育方針の理解とわが家の教育方針の一致」を強調すると思います。何十枚何百枚もこのパターンが続く中で、わが家の子育てや教育方針を中心に書かれた願書があれば、面接官の関心を引く願書になると思います。

3

「この子・この家族」を受け入れるための材料がある

面接では、志望理由の中から質問の材料を決めています。たとえば、以下のような志望理由だったとしましょうか。

御校の教育のすばらしきは、御校の在校生の親や卒業生である複数の友人を通じて知りました。とくに学校説明会でお伺いした校長先生の「教育とは共育・協育」というお話には感動すら覚えました。躰をはじめ、家庭内でできることは、むろん、親の責任として教育するつもりですが、学校教育の場で学び、身につけなければならないことも多々あると存じます。御校のご指導の下、共に生き学んでいきたいと思い、志願いたしました。

この志望理由に対して、面接では何を聞かれるかというと、次のA Bについては質問されることは少ないと思います。

A 「本校の在校生の保護者や卒業生からどんなお話をお聞きしましたか？」

B 「本校校長の話のどんな点に感動しましたか？」

A については、面接官にはあまり興味がありません。志望理由を聞けば、どの保護者も絶賛するでしょうから、興味はないし、うんざりしているかもしれないし、Bについても、多くの学校は校長先生が面接をしますから、自分の話のどこに感動してくれたのかを聞きたがるかどうかです。面接官

の興味は、次の1点です。

C 「家庭内でできる教育とは具体的にどんなことでしょうか」

どんな考え方の下に、どんな子育てをしてきたのか、面接官はそれを知りたいのです。志望理由には「躰をはじめ、家庭内でできること」と書いてありますが、その程度のことではできて当たり前という平凡な答えだと、試験官の期待を裏切ることになります。

試験官は、「この子・この家族を受け入れるための材料」を面接で知りたがっていて、そのためにCのような質問をします。A Bには、保護者の熱意はわかったとしても、「この子・この家族を受け入れるための材料」がないからです。

躰でも何でもいいのですが、面接官にアピールできるものをどれくらい用意できるか、それが面接の成否を大きく左右します。たとえば、躰であれば、「そこまでおやりになりましたか」と、面接官を感心させなければいけません。名前を呼ばれたらきちんと言返事を、食事のときはテレビを消す、父親が仕事にでかけるときは「いつてらっしゃい」と言える……この程度では面接官は驚かないと思います。

受験のために、それも3か月くらい前から躰をやかましく言ってきたというのでは、簡単に見抜かれます。「躰を第一に育ててきました」と親が答えている側で、子どもが足をブラブラさせていたり、体をグニャグニャさせているという光景はそんなにめずらしいことではありません。「一夜漬けの躰ですか？」などと皮肉をいわれることはありませんが、せっかくの志望理由も面接官の心を動かすことはむずかしいでしょう。

4

「わが家・この子のウリ」が盛り込まれているか

願書作成の最大の難関は「志望理由」です。幼児教室の先生からは、もっと具体的にとか、家庭教育の方針と志望校の教育方針が一致するように書いてくださいとアドバイスされていると思います。

しかし「家庭教育の方針」といつても、もともと私学を受験しなければそんなややこしいことは考えなかつたでしょうから、どう書いていいかわかりません。家庭教育の方針がないのではなく、改めて考えたことがないので、「書く」のは、さらにむずかしくなります。

また、志望校の教育方針との一致点は何かといつても、各校とも教育方針に大きな違いはありません。「全寮制で6年間、ビシバシしごきます」という教育方針であれば（むろん、そんな小学校はありませんが）、それに感動したでいいのですが、「国際化時代を生き抜く」とか「自ら考え、自ら行動する」、「他愛精神を重んじる」などというのは、あまりにも漠然としていて、共感したとか賛同すると書くのが白々しくなります。

志望理由の本音は、有名だから、中学受験に有利だから、名門校だから、大学までストレートに進学できるから……という人が大半でしょう。本音を書けないために、どうしても当たり障りのない文言で、しかも抽象的な志望理由になってしまうのです。ここはもつと具体的にとか、エピソードを交えて……などと指摘されても、どう書いていいかわからないというのが本当のところでしょう。

志望校の教育方針＋わが家の教育方針との一致＝志望理由

という図式にこだわるから書きにくいのかもしれません。願書とは、「わが家・わが子売り込むた

めのカatalog」です。商品カatalogですから、いかにすばらしい家庭か、優秀な子どもかをPRすればいいのです。これなら家庭の教育方針とか志望校の教育方針との一致などとややこしいことに頭を悩ませる必要はありません。

家庭の教育方針となると茫漠として書けなくても、わが子にはどんな良さがあるか……これなら、いくらでも書けるのではないのでしょうか。1歳からスイミングスクールに通わせていて、5歳で小学校4年生レベルだというなら、運動神経が発達している、我慢強い、根性がある、頑健、ねばり強いなど、いくらでも思いつくと思います。それを志望校の教育方針にむすびつければいいのです。

「我が家」のウリは何もないという人も多いと思いますが、祖父母が同居していることも話のもっていきようでは「ウリ」になります。家族旅行が多い家庭なら、行き先々でコレコレの体験をさせているという点が「ウリ」になります。親戚に政治家がいるのも「ウリ」です。財産がたくさんあるのも「ウリ」です。

要するに、「うちの家族・うちの子を合格させるメリット」を相手に伝える、願書とはそういうものだど割り切ってください。そうすれば簡単に書けるのではないのでしょうか。不必要にへりくだったり、謙遜するは避けるべきです。「この商品はいいところはなにもありません」という態度は相手に失礼です。何百枚もの願書に目を通す先生方は、「この家族・この子を合格させる材料」を見つけないと思つて一生懸命に読んでくれるのですから。

7

「手垢のついた言葉」は使わない

誰でも思いつく言葉、使い古された言葉や言い回しはできるだけ避ける、これがいい文章を書くコツです。願書のように、テーマもスペースも決まっている文書でも同じです。というより、願書だからこそ、ひと味の工夫がほしいところです。

たとえば、子どもの長所・短所は何かというテーマで書くとき、これは願書だけでなく、面接でも質問されることが多いテーマです。受験するからには、「書く」か「聞かれる」か、そのどちらかがあると思って事前に準備しておいたほうがいいでしょう。最初のうちはこういう言葉がたくさん出てくると思いますが、いかがでしょうか。

「好奇心の強い子です」

「思いやりのある子です」

「我慢強い子です」

「明るい子です」

「協調性のある子です」

「リーダーシップのある子です」

「どんなことにも最後までやり遂げる子です」

子どもの長所・短所について、こういう書き方をすると、幼児教室の先生方はけっこうですと言いません。具体的に書いてくださいと指摘するはずですよ。「発想が豊かな子です」だけでは、どんなふうに豊かなのか、読み手にイメージがわからないのです。

「発明好きな父親に似て、とても発想が豊かな子です」

これでも漠然としていますね。

「段ボールと新聞紙を組み合わせて動物や乗り物をつくらせると、1時間でも2時間でも熱中します。ときどき親がびっくりするようなユニークなものをつくることがあります」

これだと、だいぶ具体的になります。どんな子かが、ぼんやりとでもイメージがわかります。「発想が豊か」とか「創造力がある」「集中力がある」という言葉を使わなくても、意味は通じます。

こういった「手垢のついた言葉」を使わないで書く練習をしてみてください。そんなにむずかしいことはありません。「創造力」という言葉を使わないで、いかに創造力のある子かを読み手に納得してもらおうのですから、否応なしに具体的に説明することになります。

「思いやりがある子です」

よりも、

「泣いているお友達がいれば、声をかけるなど、思いやりのある子です」

このほうがちょっとだけ具体的です。もう少し工夫してみましよう。

「仲間はずれになった子やみんなと一緒に遊べない子がいると、どうしたの？ と声をかけたり、その子と一緒に遊ぼうとするなど、思いやりのある子です」

このほうがより具体的ですね。もつと書くスペースがあるなら、

「祖母が風邪で寝込んだとき、祖母の枕元で絵本を何冊も読んであげていました」

という一文を付け加えてもいいですね。こうなります。

「祖母が風邪で寝込んだとき、枕元で絵本を何冊も読んであげていました。また、幼稚園では、仲間はずれになった子やみんなと一緒に遊べない子がいると、どうしたの？ と声をかけたり、その子と一緒に遊ぼうとするなど思いやりのある子です」

こういうさりげない一文を入れることで、読み手は、この子は思いやりがあるだけでなく、「家族を大切に育てられた」というイメージをもちます。ついながら、「……していました」という言い方は、ちよつと他人事のようにですが、こういう言い回しをすることで、母親から言いつけられたのではなく、自発的に絵本を読んであげたのかなという印象を感じます。

また、上の文章の末尾に、「……とクラスの先生にほめられたことがあります」と付け加えてもいいと思います。

「祖母が風邪で寝込んだとき、枕元で絵本を何冊も読んであげていました。また、幼稚園では、仲間はずれになった子やみんなと一緒に遊べない子がいると、どうしたの？ と声をかけたり、その子と一緒に遊ぼうとするなど思いやりのある子です、とクラスの先生にほめられたことがあります」

わが子の長所はストレートにほめるよりも、第三者の口を借りるのがコツです。

7

人に聞くのが恥ずかしい疑問

願書を書くときは、いきなり書き出すのではなく、ざっと全体に目を通してから書き出すようにしてください。「ふりがな」と指示されているのに「カタカナ」で書いてはいけません。「平成」とあるのは西暦で書いたりすると、その程度のことと減点はしないでしようが、あまりいい印象は持たれないでしょう。こういううっかりミスをするのはうちが本命校ではないからだと思われかねません。

何も指示がないとき、たとえば「年月日」だけの場合、平成か西暦か迷いますが、どちらでもいいでしょう。複数箇所に記入するときはどちらかに統一するようにしてください。

◆ 「ふりがな」「カタカナ」は間違いやすい

● 「ふりがな」のときは「ひらがな」、「フリガナ」のときは「カタカナ」で記入する。志願者・保護者とも氏名は住民票に記載されているもので書く。何も指示がないときはどちらでもよい。複数箇所に記入するときはどちらかに統一する。

● 「平成」と「西暦」の違いに注意。何も指示がないときはどちらでもよいが、統一すること。

● ○○○○小学校校長 殿でよい。

入 学 願 書

平成 年 月 日

志 願 者	ふりがな 氏 名					生年月日				
						平 成	年	月	日	
	現住所	〒 _____ TEL (_____)								
	これまでの 教育	私 立 市 幼 稚 園 年 保 育 保 育 園								
保 護 者	ふりがな 氏 名					印	志願者 との 続 柄			
	現住所	〒 _____ TEL (_____)								
備 考	・受験の際に知ってほしい事									

● 幼稚園（保育園）名は略称ではなく、正式名称で書く。

● 「父（母）」でも「父親（母親）」でもどちらでもよい。「父（母）」と指示されているときはそれに従う。学校によっては「保護者から見た続柄」（この場合、「長男」もしくは「長女」など）を指示しているケースもあるので注意が必要。